

近畿地方



地図クイズなど



大阪の道頓堀川 (大阪府)



琵琶湖の展望台 (滋賀県)



京都の祇園祭 (京都府)



伊勢神宮 (三重県)



神戸港 (兵庫県)



梅の収穫 (和歌山県)



東大寺の大仏 (奈良県)



写真で眺める
近畿地方



↑1 面積が日本一の湖、琵琶湖
(滋賀県大津市、2020年) 琵琶湖の水は、瀬田川、宇治川、淀川と流れ、大阪湾へと注ぎます。
➡ p.202、205

琵琶湖の水は、
どんなことに
利用されている
のかな？



↑3 西洋風の建物を観光する人々(兵庫県神戸市、2022年) この建物は、明治時代に神戸を拠点に貿易を営んでいた外国人の家でした。
➡ p.202、204

←4 奈良の伝統行事の一つである若草山の山焼き(奈良県奈良市、2017年1月) 写真手前は興福寺五重塔です。 ➡ p.209

↑2 姫路城(兵庫県姫路市、2022年4月) 日本で最初の世界文化遺産に登録された姫路城には、国内外から多くの観光客が訪れます。
➡ p.209





↑5 観光客でにぎわう清水寺の山門(京都府京都市、2016年5月)
着物を着て、観光名所をめぐる観光客が増えています。➡ p.208



※数字は写真番号を示す。



↑6 遊歩道が整備された道頓堀川と観光客を乗せた観光遊覧船
(大阪府大阪市、2018年)

➡ p.202、204

ビルが立ち並ぶ街の
なかに、遊覧船が通れる
川があるんだね!



←7 真珠の養殖(三重県志摩市) ➡ p.202、211

近畿地方の学習を見通そう

➡ p.213の振り返りでは、あなたの考える「写真で眺める近畿地方」をつくろう

この節では、写真1~7のような近畿地方の様子が、特に「環境保全」の視点とどのように関係しているのかを
中心に考えていこう。

見直しスライド

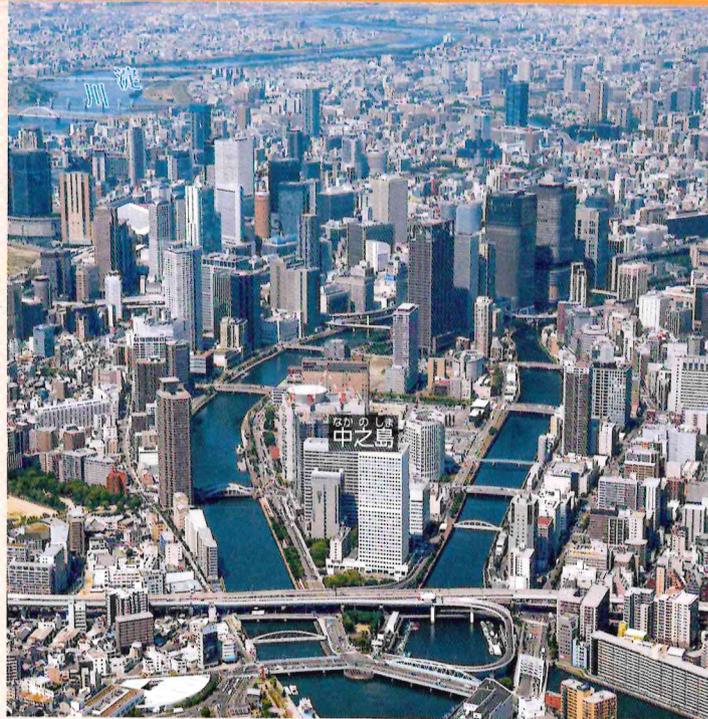




3節の問い 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。



↑1 近畿地方の自然



↑2 淀川の下流に広がる大阪の中心部(大阪府大阪市、2016年)

1 近畿地方の自然環境



学習課題

近畿地方は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。

面積 37.8万km ²	九州 11.8%	13.4%	近畿 8.7%	中部 17.7%	関東 8.6%	東北 17.7%	北海道 22.1%	4.1%
人口 1億2541万人	11.3%	8.6%	17.7%	16.8%		34.7%	6.8%	

(2023年) [住民基本台帳 人口・世帯数表、ほか]

↑3 日本に占める近畿地方の割合

中部の平地と南北の山地

近畿地方は地形に注目すると、大きく北部・中部・南部の三つの地域に分けられます。

中部は、日本最大の湖である琵琶湖や淀川などの周囲に広がる平地が多く、近江盆地や京都盆地、奈良盆地などの盆地と、大阪平野や播磨平野などの平野が広がっています。これらの平地は古くから人々の生活の場となり、現在は京都・大阪・神戸などの大都市が集中する地域になっています。

中部の平地を挟んだ北側と南側は、広い範囲が山地になっています。北部が中国山地や丹波高地などのなだらかな山地であるのに対して、南部には紀伊山地の険しい山地が広がります。

近畿地方は、北は日本海、南は太平洋、西は瀬戸内海に面しています。播磨灘や大阪湾のほとんどが人工海岸であるのに対して、北部と南部では山地が海まで迫り、若狭湾や志摩半島には、入り組んだ海岸線が特徴のリアス海岸が見られます。



↑4 淡路島と本州を結ぶ明石海峡大橋(兵庫県淡路市、2015年) 本州四国連絡橋の一つです(→ p.188)。



↑5 冬の天橋立 (京都府宮津市、2022年2月) 日本三景として有名です。



↑6 梅の実の収穫 (和歌山県田辺市、5月)



未来に向けて 高潮や津波に備える水の都、大阪

防災

満潮時の海面より標高が低い所を、「海拔0メートル地帯」とよびます。大阪市を中心とした京阪神大都市圏には、海拔0メートル地帯が約124km²あり、そこには約138万人が暮らしています。このような地域では、台風による高潮(→p.147)の被害が起りやすいため、例えば大阪市では、安治川・尻無川・木津川の河口に水門を設置するなどして対策をしています。2018年の台風21号による高潮が発生した際は、これらの水門や堤防などによって河川の氾濫や住宅の浸水被害を防ぐことができました。現在、気候変動による平均海面の上昇や台風の強大化、南海トラフ地震で想定される津波に備え(→p.148)、水門の改築や堤防の補強が進められています。



↑7 高潮を防ぐ木津川水門(大阪府大阪市、2018年9月) **資料活用** 左右の水面の高さの違いに注目しよう。

3章

日本の諸地域

近畿地方

三つの地域で異なる気候

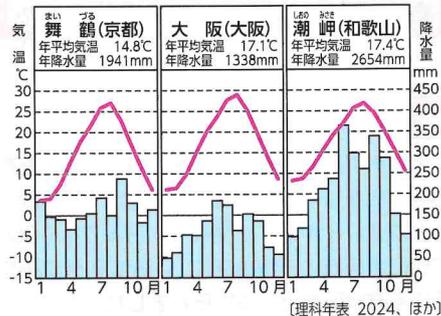
近畿地方の気候も、北部・中部・南部で異なります。日本海に近い北部は、冬には北西からの季節

節風の影響で雨や雪が多く、山地にはスキー場がたくさんあります。

一方、太平洋に近い南部は、暖流の黒潮の影響で冬でも温暖で、和

歌山県ではみかんや梅などの果樹栽培が盛んです。紀伊半島の南東側は、南東からの季節風が吹きつける夏に雨が非常に多く降るため、日本有数の多雨地域として知られます。温暖で雨が多い紀伊山地は、樹木を育てる林業が盛んな地域となっています。

中部は、平野や盆地を中心に夏の暑さが厳しく、阪神甲子園球場で行われる夏の全国高校野球選手権大会は、暑さ対策が課題になっています。また、京都盆地などの内陸の盆地は、夏は暑さが厳しく、冬は冷え込むため、1年の気温の差が大きいのが特徴です。中部は、北部と南部を山地に挟まれているので、年間を通して降水量が少なく、水不足のときでも田畑に水を送れるように、播磨平野や奈良盆地などではため池が数多くつくられてきました。



↑8 近畿地方の主な都市の雨温図

地図帳活用

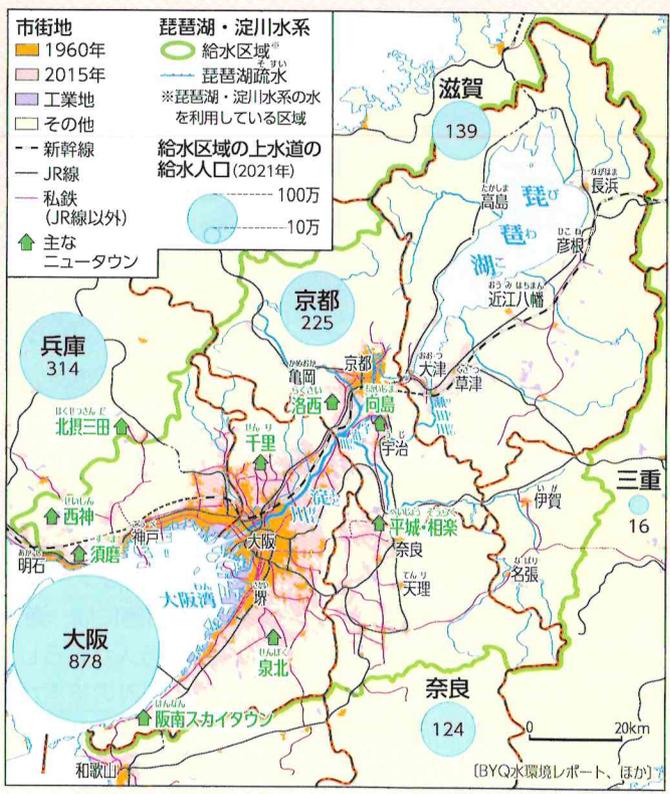
近畿地方の降水量の多い地域が、夏と冬でどのように変化するのか、確認しよう。

確認しよう 近畿地方の北部・中部・南部にみられる特徴的な地形を、図1や地図帳で確認しよう。

説明しよう 近畿地方の気候の特徴を、北部・中部・南部に分けて説明しよう。



水路閣を上から見ると



↑ **琵琶湖疏水の一部、南禅寺の水路閣**(京都市京都市、2022年)
 琵琶湖疏水は、琵琶湖の水を京都に引くために、明治時代に建設されました。南禅寺を通る部分は橋のようになっています。



琵琶湖から流れる水は、どのような地域で利用されているのかな？

→ **京阪神大都市圏と琵琶湖・淀川水系の範囲**

2 琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏

3節の問い 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

学習課題 京阪神大都市圏の水源である琵琶湖とその周辺では、水質や環境の保全のために、どのような取り組みが行われてきたのだろうか。

解説 ニュータウン

大都市の過密状態を解消するために、大都市の周辺に新しく建設された住宅団地や市街地のことです。イギリスが発祥で、日本では1960年代に大阪府の千里地区に、1970年代に東京都の多摩地区などにつくられました。

京阪神大都市圏と水の都、大阪 京都、大阪、神戸を中心に広がる京阪神大都市圏は、東京大都市圏に次いで人口が集中している地域です。大阪府を中心にして鉄道や道路が周辺に延び、

沿線に市街地が広がっています。

京阪神大都市圏では、人口の増加に伴って住宅地が不足したため、1960年代から郊外の丘陵地に千里・泉北・須磨などのニュータウンがいくつも建設されました。六甲山地が海岸まで迫っていて平坦な土地が少ない神戸市では、山を削ってその土砂を海の埋め立てに利用することによって、市街地を広げる工夫をしてきました。



↑ **神戸港に広がる人工島**(兵庫県神戸市、2023年)

近畿地方の中心都市である大阪の歴史は、琵琶湖などから流れ出て大阪湾に注ぐ、淀川と深く関わってきました。淀川の河口に位置する大阪は、古くから港が栄え、西日本や東アジアとの交易の窓口となっていました。江戸時代には、全国の米や特産物を売買する商業が発展していたことから、大阪は「水の都」や「天下の台所」とよばれてきました。近年では、道頓堀川の整備など、川や運河が多いことをまちづくりに生かす取り組みもみられます。

近畿地方には、多くの在日韓国・朝鮮人が暮らしています。これらの人々の多くは、日本が朝鮮半島を植民地支配した時期に、生活が成り立たなくなって移住したり、労働者として連れてこられたりした人々とその子孫です。大阪市生野区などの在日韓国・朝鮮人が多い地域には、キムチなどの食べ物や民族衣装を売る店が並ぶ商店街があり、生活に密着した場所となっています。また、朝鮮半島の伝統的な踊りや音楽といった文化に触れられる祭りも開かれています。このように、在日韓国・朝鮮人は独自の伝統文化や生活習慣を誇りとして大切にしています。



↑4 キムチ店などが並ぶ生野区の商店街(大阪府大阪市、2022年)



←5 琵琶湖で発生した赤潮(滋賀県) 小塵公

↓6 横断幕を掲げて粉せっけんの使用を訴える市民(滋賀県大津市、1979年) 小塵公



↑7 水質改善のためにヨシの苗を琵琶湖の湖岸に植える活動に参加する中学生(滋賀県長浜市)

琵琶湖・淀川の環境保全

琵琶湖・淀川水系の水は、浄水場で安全な水道水となって京阪神大都市圏の人々の生活を

支えており、流域全体の環境保全は、重要な課題となっています。

- 琵琶湖では、周辺の農地で使われた肥料や、急速に増えた工場の
- 5 廃水、家庭の生活排水などが流れ込んだことにより、1970年代から、赤潮やアオコとよばれるプランクトンの異常発生などが起こるようになり、水道水への影響が問題になりました。このため、琵琶湖周辺の住民は、水質悪化の原因となるりんを含む合成洗剤の使用中止と、りんを含まない粉せっけんの使用を呼びかける運動を始め、
- 10 滋賀県も下水道の整備や工場廃水の制限に取り組みました。その結果、琵琶湖に流れ込む水質を悪化させる物質は、徐々に減少していききました。近年では、水中のりんなどを養分として成長するヨシを湖岸に植えることにより、水質を改善しようとする取り組みなども行われています。また、大阪市内の淀川下流では、数が激減した天然記念物のイタセンパラの復活を目指して、市民と行政、研究者が
- 15 協力して、生息場所の確保や外来魚の駆除などに取り組んでいます。



↑8 淀川下流での外来魚の駆除活動(上)(大阪府大阪市、2022年)とイタセンパラ(右)



外来魚に食べられて数が減った日本固有のイタセンパラを保全することで、多様な生物が生きる生態系の回復につながります。

琵琶湖・淀川水系の給水区域内にある主な都市を、図2や地図帳で確認しよう。

琵琶湖の周辺で、水質を保全するために行われてきた取り組みについて説明しよう。



大阪湾沿岸の工業地帯の移り変わり(兵庫県尼崎市)
3枚とも、ほぼ同じ場所を撮影しています。

大阪湾に面した工業地帯は、どのように変化してきたのかな？



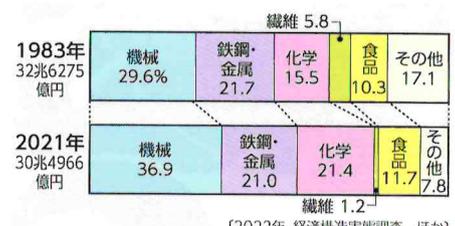
資料活用 建物の様子や周辺の環境の変化に注目しよう。



3 阪神工業地帯と環境問題への取り組み

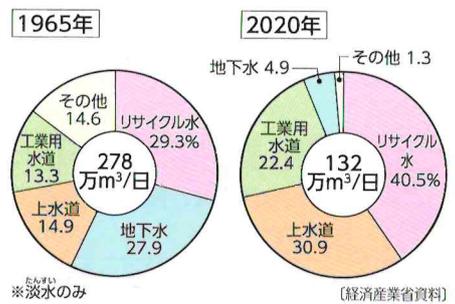
3節の問い 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

学習課題 阪神工業地帯では、工業の発展と共に生じた課題をどのように解決しようとしてきたのだろうか。



移り変わる阪神工業地帯 大阪湾沿岸の地域は、明治時代から繊維などの軽工業が、第二次世界大戦前後からは重化学工業が発達し、阪神工業地帯の中心として日本の工業を支えてきました。しかし、高度経済成長期に工業がさらに発展すると、地下水のくみ上げによる地盤沈下や、工場の排煙による大気汚染などの公害が深刻になりました。そのため、これらの対策として、地下水採取の規制や使用した水の再利用、排煙処理装置の設置が進められました。その結果、環境の改善が進み、今では廃棄物や二酸化炭素の排出ゼロに取り組む工場も増えています。

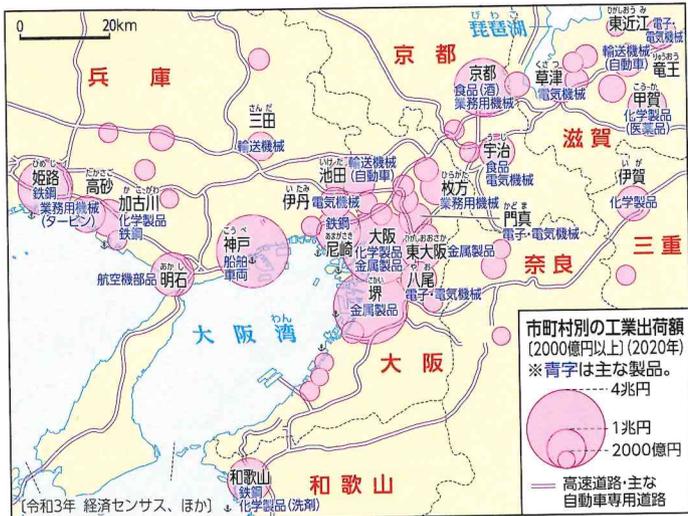
↑ 阪神工業地帯の工業出荷額



↑ 大阪府の工業用水の水源

資料活用 水源の変化を読み取ろう。

大阪湾沿岸には多くの埋立地があります。臨海部は原料や製品の海上輸送に便利なことから、1960年代には兵庫県尼崎市から大阪府大阪市、堺市にかけての埋立地に、大規模な化学工場や製鉄所などがつくられました。しかし、1980年代に国内で工業の分散が進められたことで化学や鉄鋼などの工業が伸び悩むと、工場の閉鎖や他地域への移転が進み、空き地が目立つようになりました。2000年代には、こうした工場の跡地に薄型パネルなどの工場が進出して、新しい生産拠点を形成しました。しかし、工業化が急速に進む東アジア



↑4 近畿地方の主な工業と出荷額 (小 鹿 公)

自転車* 2964億円	大阪 71.3%	その他 28.7
絵の具 59億円	67.3%	32.7
じゅうたん 21億円	64.0%	36.0
野球用具 89億円	21.7%	78.3

※部品を含む (2019年) [2020年 工業統計表]

←5 大阪府で生産が盛んな工業製品



←6 「絶対に緩まないねじ」を製造する企業 (大阪府東大阪市)

諸国との競争のなかで、生産は縮小しました。

現在の臨海部は、工業地域としての再生が図られる一方で、大型の物流施設やテーマパーク、さらに公園や住宅などさまざまな利用が行われる地域へと変化しています。人工島の夢洲で開催される「2025年日本国際博覧会」でも、最先端の環境技術を生かした施設の整備が進められることになっています。

地域に根ざした中小企業

大阪府の東部にある東大阪市や八尾市などには、中小企業の町工場が数多くあります。これらは、

これらの工場は、金属加工をはじめとする多様な業種からなり、自転車やその部品、文房具など、生活に関わりが深いさまざまな工業製品を生産しています。また、特殊な技術で知られる企業や、市場シェアの高い製品をつくる企業も少なくありません。一方、後継者不足などから廃業する企業もみられ、こうした工場の跡地に住宅が建設され、工場からの騒音や振動が問題となってしまうことがあります。そこで、時間帯によって騒音を規制するなどの対策を行い、工場と住民が共生できるまちづくりが進められています。

解説 中小企業と大企業

中小企業は、製造業の場合、資本金が3億円以下、または従業員数が300人以下の企業のことです。また、中小企業の基準を超える企業のことを大企業といいます。

地図帳活用

中小企業の町工場が多い東大阪市の工場分布を確かめよう。

確認しよう 阪神工業地帯では、かつてどのような公害が発生したのか、本文から書き出そう。

説明しよう 阪神工業地帯において、発生した環境問題に対して行われてきた取り組みについて説明しよう。



京都の住所にある「上る」「下る」は、どういう意味なのかな？

↑1空から見た京都市の中心部 (京都府、2020年) 小 歴 公

下京区室町通五条下る大黒町 Shimogyo-ku Muromachi-dori Gojo sagaru Daikoku-cho

↑2京都市内の住所表示の例

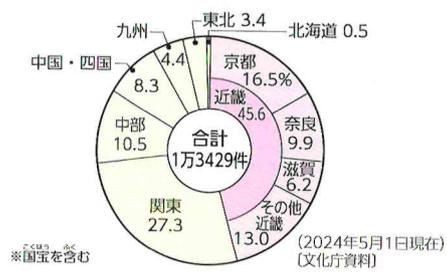
4 古都京都・奈良と歴史的景観の保全

3節の問い 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

学習課題 京都と奈良では、歴史的景観を保全するために、どのような取り組みを行っているのだろうか。

歴史が息づく 古都の町並み 京都の古くからの市街地では、四條通などの東西に延びる道路と、烏丸通などの南北に延びる道路が、碁盤の目のように整然と交差しています。これは、平安時代につくられた平安京の道路網が、現在まで引き継がれているからです。京都では通りに名前が付けられており、住所を示すのにも、写真2のように、通りの名前が使われます。ある通りから見て北にある場所は「上る」、南にある場所は「下る」と表示されます。

京都と奈良は、8世紀以降、平安京や平城京の都が置かれ、長い間、日本の政治や文化の中心であったので、「古都」とよばれています。世界文化遺産に登録されている清水寺や東大寺をはじめ、寺院や神社が多く、重要文化財に指定された建物や絵画、彫刻なども数多く残されています。また、西陣織や清水焼、奈良墨などの伝統的工芸品の生産も盛んで、京都に夏の訪れを告げる祇園祭など、さまざまな伝統文化も息づいています。このように、日本の歴史を感じられる京都と奈良には、国内外からの観光や修学旅行などで多くの人々が訪れています。しかし、2020年に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響で、観光産業は大きな打撃を受けました。



↑3 地方別の重要文化財数の割合

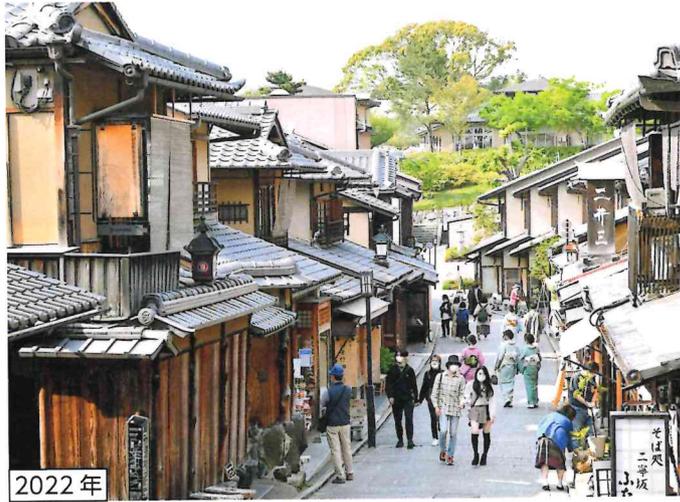
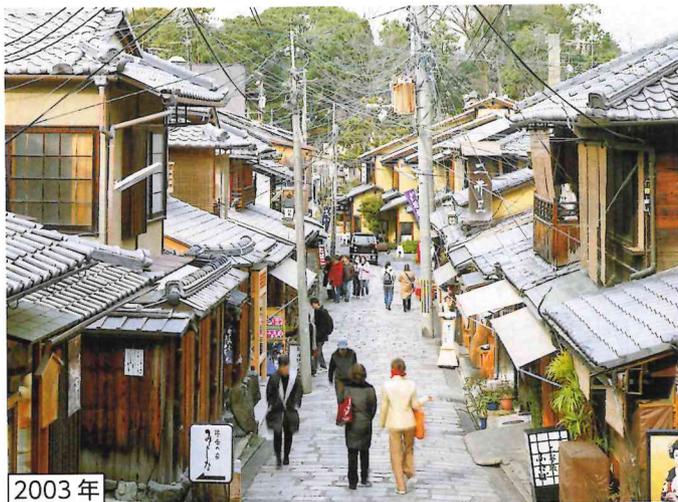


↑4 京都市を訪れる観光客数の変化

兵庫県姫路市では、世界文化遺産に登録されている姫路城（→p.200）を中心としたまちづくりが進められています。例えば、姫路駅と姫路城を結ぶ大通りである大手前通り沿いの地区では、戦後に先駆的に行われた無電柱化をはじめ、建物の高さや外壁の色に基準を設けるなど、姫路城の魅力を引き立てるための景観づくりが進められました。近年、再開発が進められた姫路駅周辺でも、歩道を拡張し、公共交通を優先した歩行者にやさしい駅前空間が広がっています。



↑5 景観に配慮した姫路城近くの町並み（兵庫県姫路市、2018年）



↑6 2003年(左)と2022年(右)の二年坂の様子(京都府京都市) **小 鹿 公** **対話** 無電柱化のメリットを話し合おう。

古都の景観の保全に向けて

京都や奈良には、伝統的な町並みが多く残されています。しかし、歴史的な建物の近くに現代的なビルが建てられるなどして、古都の景観は失われつつあります。

このため、京都や奈良では、住民の利便性を守りながら、古都の歴史と伝統を後世に受け継いでいくための、さまざまな取り組みが行われています。例えば京都では、伝統的な町並みがよく残っている地区などで、建物の高さやデザインを整えたり、電線を地中に埋めたりすること(無電柱化)が行われています。また、奈良でも町家とよばれる伝統的な住居の保存のために、外観を保って建物の内部だけをコンビニエンスストアやカフェなどの店舗に改装するなどの取り組みが行われてきました。ほかにも、興福寺五重塔や若草山への眺望の確保などを目的に、建物の高さが制限されています。これらの取り組みには、歴史を感じることでできる町並みの魅力を残したいという、古都に暮らす人々の願いが込められています。



↑7 町家を改装したコンビニエンスストア(奈良県奈良市、2022年) **小 鹿 公**

地図帳活用

京都市や奈良市の世界文化遺産の寺社を確認しよう。



確認しよう

「古都」とよばれる京都と奈良における観光資源の例を、本文から書き出そう。



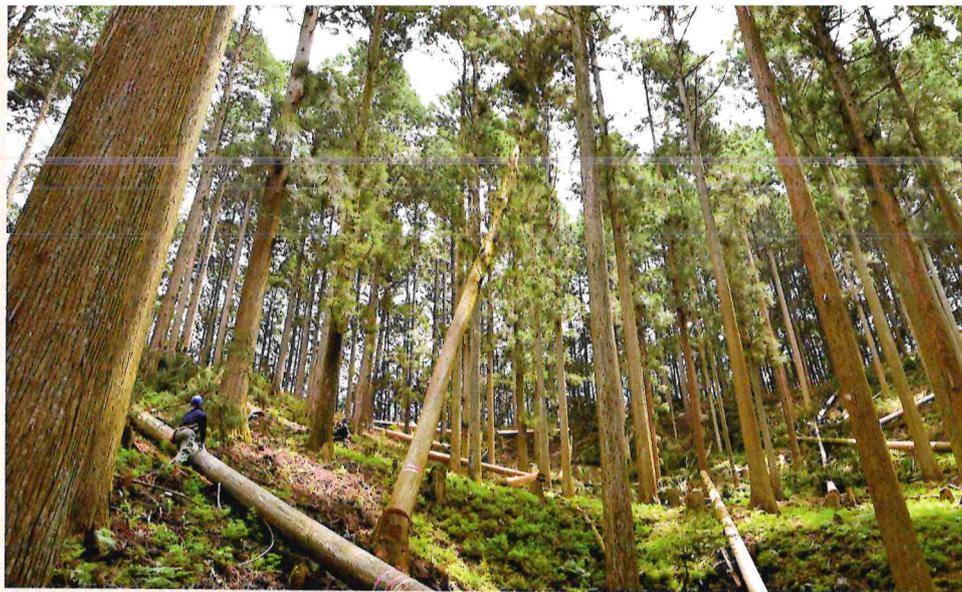
説明しよう

京都と奈良において、歴史的景観を保全するために行っている取り組みについて説明しよう。

すごい高さの木だね!



→1「吉野すぎ」の伐採
(奈良県川上村、2017年7月)



「吉野すぎ」は、樹齢100年以上のものもあるんだって



5 環境に配慮した林業と漁業

3節の問い 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。



↑2 奈良・和歌山・三重の3県における林業従事者数の変化



↑3 林業従事者育成支援講座の様子(三重県津市、2021年)

地図帳活用

三重県尾鷲市の林業の様子を確認しよう。



学習課題

近畿地方では、森林の保全や水産資源の保護のために、どのような取り組みが行われているのだろうか。

林業が盛んな紀伊山地

雨が多く温暖な気候が木の生育に適している紀伊山地には、豊かな森林が広がっています。急斜面の多い険しい山地であるにも関わらず、森林の多くは人が育てた人工林で、すぎやひのきなどが植えられています。これらの人工林では、樹木の成長に合わせて伐採と植林が繰り返し行われ、枝打ちや間伐などの手入れを行って樹木を育てる林業が、古くから行われてきました。特に奈良県の「吉野すぎ」や三重県の「尾鷲ひのき」は、色が美しく香りもよいことから、建築材や家具などに加工され、高品質な木材のブランドとして知られています。

林業の課題とその対策

紀伊山地の森林には、出荷に適した樹齢60年ほどのすぎやひのきが豊富にあります。しかし、安い外国産木材の輸入が増えたことで、木材価格が低迷したため、伐採量はほとんど増えていません。

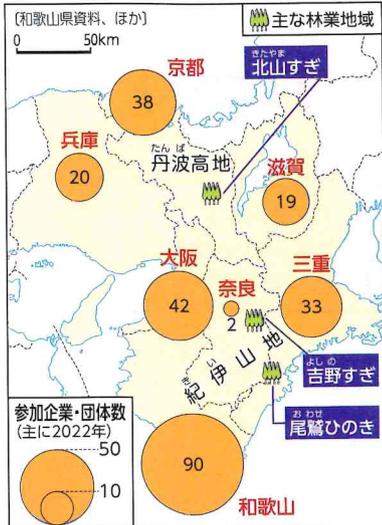
また、山間部では高齢化によって林業の働き手が減り、森林を管理する技術を受け継ぐ後継者が不足しており、荒れてしまう森林が増えています。そこで新たに林業に従事する人を増やすために、林業の知識や技能が習得できるよう国が支援する「緑の雇用」制度や自治体独自の支援制度が設けられています。これらを利用して林業の仕事に就く人が増え、山間部に移住してくる人もみられるようになりました。

吉 くまのこどう ほぜん
熊野古道の保全に取り組む人の話

紀伊山地には、高野山や熊野本宮大社のように、古くから人々の信仰の対象となってきた場所があり、そこへ通じる熊野古道と共に、世界文化遺産に登録されています。しかし、世界文化遺産に登録された後は、観光客の増加によって熊野古道の山道が荒れたり、山道を整備したことで元の植生が壊れてしまったりしたので、地元の住民や企業によって保全活動が行われています。熊野古道は生活道路としても利用されている所も多く、住民の生活を守ることと観光産業との両立が課題となっています。



↑4 熊野古道の保全活動(和歌山県田辺市)



←5 近畿地方の「企業の森づくり活動」の事例数

→6 船上で選別されるずわいがに(兵庫県、豊岡市近海、11月) オスとメス、サイズで分けられ、漁業規制で決められたサイズよりも小さなかには、海に戻すことになっています。



環境林を保全するために

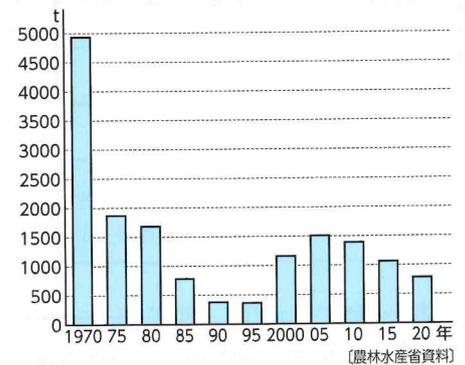
森林には、土砂災害を防ぐ役割、川や海に栄養分を含んだ水を安定的に供給し漁業を支える役割、

二酸化炭素を吸収して地球温暖化を防ぐ役割などがあります。このような環境に対する効果を重視した「環境林」を保全する取り組みが広がっています。行政による取り組みのほか、企業が所有者から森林を借りて、植林などの作業に社員が参加し、地元の林業従事者との交流を深める「企業の森づくり活動」が行われています。

水産資源を保護する取り組み

ずわいがに漁が盛んな日本海側では、1970年代から漁獲量が減少したため、漁獲するかにの大きさや量、漁の時期などを制限しています。府県間の連携や自治体独自の自主的な取り組みも進められており、持続可能な漁業に対する国際的な認証を取得した漁業団体もあります。

また、英虞湾では、干潟の干拓や生活排水などにより水質が悪化し、特産の真珠の養殖に影響が出ています。そのため、水質浄化の機能をもつ干潟の再生に住民も取り組むなど、人と自然が共生する「里海」の環境を回復させる取り組みが進められています。



↑7 兵庫県のずわいがに漁獲量の変化

① 2008年に京都府の漁業団体がアジアで初めて取得しました。認証を取得した漁業による水産物には、「海のエコラベル」がつけられます。



確認しよう

紀伊山地の林業で課題となっていることを、図3や本文で確認しよう。



説明しよう

近畿地方で行われている、森林の保全や水産資源の保護のための取り組みについて説明しよう。



- = 3節の問い = 見方・考え方 地域の特徴(→巻頭8)
- 近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

節の振り返り1 学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう 知識 地図帳活用

1. A～Gにあてはまる府・県庁所在地名と、その府・県名を答えよう。
2. ㉑～㉔にあてはまる湾名、湖名、河川名、山地名を答えよう。
3. ①～⑤にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

- ㉑ 湖・淀川水系(→p.202、204～205)
- ・①の人々の生活用水
 - ・水質を改善するための取り組み
 - ・川や運河を生かしたまちづくり

日本海沿岸(→p.211)

- ・ずわいがに漁など 漁業が盛ん

①(→p.204～205)

- ・東京大都市圏に次ぐ人口集中地域
- ・「水の都」や「天下の台所」とよばれ、古くから商業が発展していた大阪
- ・市街地を広げる工夫をしてきた神戸
- ・人口増加に伴って、郊外の丘陵地に②を建設

阪神工業地帯(→p.206～207)

- ・地盤沈下や大気汚染など③が発生
- ・大阪府の東部に④の町工場が多い

京都・奈良(→p.208～209)

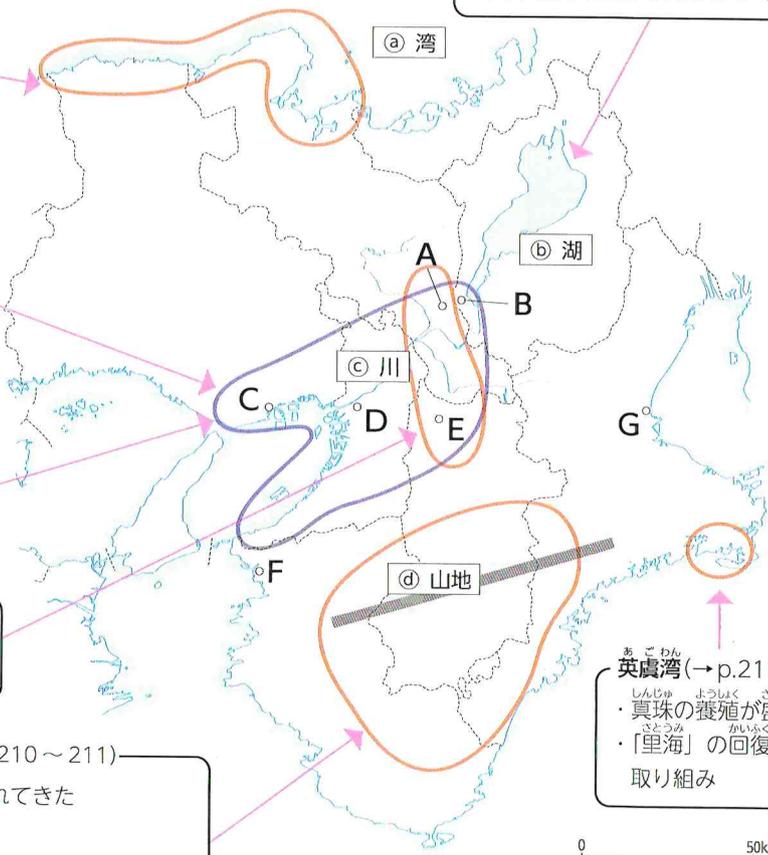
- ・歴史的景観や文化財を生かした観光が盛ん
- ・西陣織などの⑤の生産が盛ん

㉔ 山地の森林(→p.210～211)

- ・古くから林業が行われてきた
- ・「環境林」の保全
- ・熊野古道の保全活動

英虞湾(→p.211)

- ・真珠の養殖が盛ん
- ・「里海」の回復を目指した取り組み

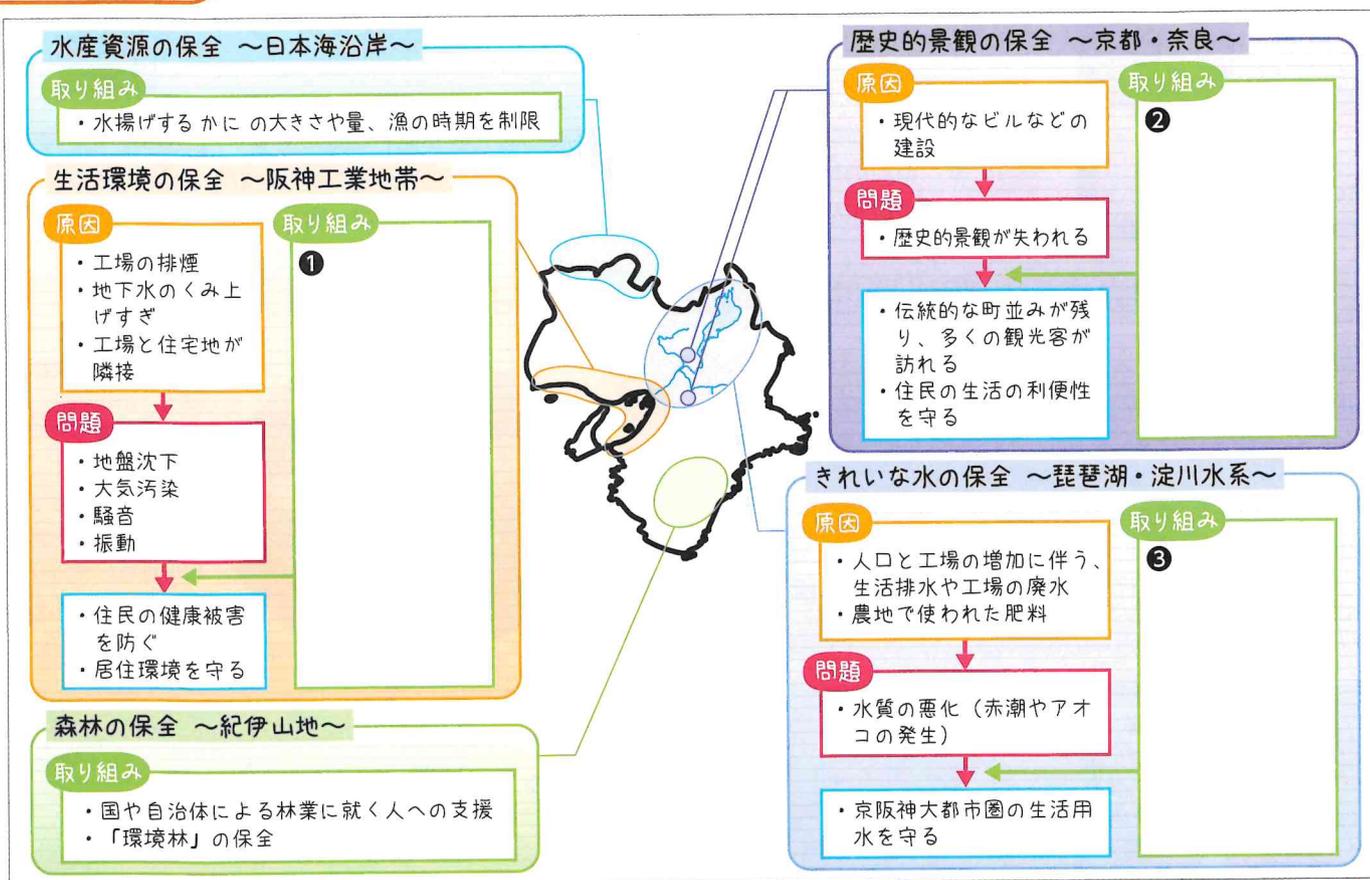


0 50km

↑ 1 白地図を使ったまとめ

✓ 節の重要語句 簡単な説明ができた語句にチェックを入れよう。

- | | | | |
|--------------------------------|----------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 琵琶湖 | <input type="checkbox"/> 季節風 | <input type="checkbox"/> ニュータウン | <input type="checkbox"/> 中小企業 |
| <input type="checkbox"/> 淀川 | <input type="checkbox"/> ため池 | <input type="checkbox"/> 阪神工業地帯 | <input type="checkbox"/> 伝統的工芸品 |
| <input type="checkbox"/> リアス海岸 | <input type="checkbox"/> 京阪神大都市圏 | <input type="checkbox"/> 公害 | <input type="checkbox"/> 地球温暖化 |



↑ 2 環境保全の取り組みに注目して近畿地方をまとめた例

1 節の問いについて、図でまとめよう

◆この節の学習を振り返りながら、図2の①～③を埋めて、環境保全の取り組みに注目した近畿地方のまとめを完成させよう。

2 節の問いについて、考えを深めよう 対話

- ◆図2をもとに、近畿地方の環境保全の取り組みが分かる写真と、その写真を補足するための資料(写真やグラフ、地図)を一つずつ、教科書や地図帳、ウェブサイトなどから選ぼう。
- ◆グループになって、選んだ写真や資料とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの「写真で眺める近畿地方(→p.200～201)」をつくり、地域の特色を示すタイトルをつけよう。

3 節の問いを踏まえて地域の特色をまとめよう

◆図2と②をもとに、近畿地方の特色を文章で簡単にまとめよう。

3節の問い

近畿地方での環境保全の取り組みは、人口増加や産業発展のなかで、どのように行われてきたのだろうか。

ヒント1 近畿地方では、人口増加や産業発展などによって、どのような問題が生じた？

ヒント2 近畿地方で行われている環境保全の取り組みは？

振り返り 主体的な学び

- 節の問いの解決に向けて主体的に取り組むことが
よくできた できた あまりできなかった
 →よくできた点や改善したい点などを書き出そう。
- 節の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことなどを書き出そう。

アクティビティ に挑戦 AL

持続可能な観光について考えよう



ワークシートなど

見方・考え方

場所
ちいさ
地域の特徴

学習 課題

京都府京都市は、国内外から多くの観光客が訪れる地域です(→ p.208)。ここでは、京都の魅力を見つけたり、京都に暮らす人々の努力を調べたりしよう。そして、持続可能な観光に向けてどのようなことが大切なのか、考えよう。

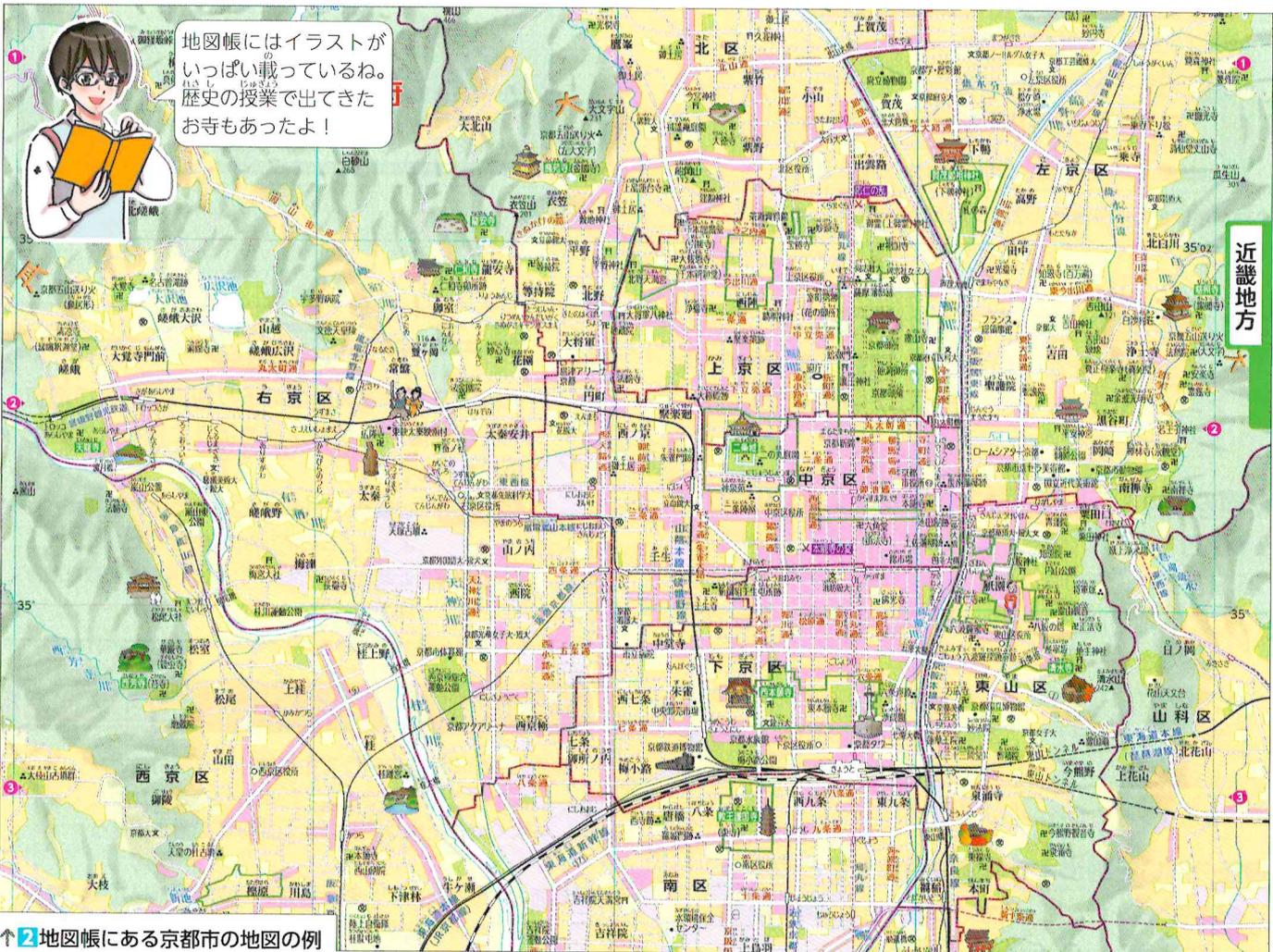
1 【観光客の立場】観光地 京都の魅力を見つけよう

TRY1

- 1 京都にはどのような神社や仏閣、観光名所があるのだろうか。地図帳やインターネットなどで調べ、行ってみたい所を三つ書き出そう。
- 2 京都には、どのような料理や食文化があるのだろうか。インターネットなどで調べ、食べてみたいものを一つ書き出そう。
- 3 **対話** 京都を訪れる観光客は、どのようなことを楽しみに訪れるのだろうか。①や②で書き出したものを発表し、京都の魅力について話し合おう。



←1 抹茶を使った洋菓子 京都には、伝統的な和菓子や懐石料理だけでなく、洋菓子も数多くあり、これらの料理や食文化は地域の魅力の一つとなっています。



↑2 地図帳にある京都市の地図の例

2 【住民の立場】 京都に暮らす人々の努力を調べよう

TRY2

- 1 京都らしい景観を保全するために、京都ではどのような取り組みが行われているのだろうか。また、どのような努力や課題があるのか、図書室やインターネットなどで調べよう。
- 2 新型コロナウイルス感染症が流行する前には、国内外から多くの観光客が訪れることで「観光公害(オーバーツーリズム)」が問題になっていました。感染症が収まったあとも、再び問題が起きている。どのような問題が起こったのか、図書室やインターネットなどで調べよう。
- 3 対話 ①や②で調べたことなどを参考に、京都に暮らす人々がどのようなことに困っているのか、話し合おう。

- ・地域の特性に応じて建物の高さ制限を設ける。
- ・周囲の歴史的な町並みや自然景観と調和するよう、建物の形や色を工夫する。
- ・京都の優れた眺めを守るため、建物の高さや形を制限する。
- ・屋上着板や点滅式の照明を禁止し、高さや大きさなどの規制を強化する。
- ・歴史的な町並みを保全するため、建物の外観の修理などに補助金を出す。
(京都市資料)

↑3 京都市が進める景観政策の例

声 京都に暮らす人の話①

京都の町並みを観光客の方は喜んでくれるのですが、町並みを守り続けることは簡単なことではありません。古い町並みの保存が指定された地区では、伝統的な家屋である「町家」を勝手に補修したり、改築したりすることができません。さらに現在は、地域に住む人の高齢化が進んで、町家の維持が難しくなっている所もあります。でも、空き家となった町家のなかには、カフェや宿泊施設に生まれ変わり、京都の新たな魅力になっている所もあります。



↑4 町家を利用した宿泊施設(京都府京都市、2023年)

声 京都に暮らす人の話②

新型コロナウイルス感染症が流行する前は、清水寺や金閣などの主だった名所に続く道路はとても混雑して、私たちのようにその地域に住んでいる人たちは、道を歩くのささ苦勞することがありました。市内を走るバスも、住民のためにあるのか、観光客のためにあるのか、たまに分からなくなっていました。感染症が収まってきたことは、とてもうれしいことですが、以前のように人がたくさん来ることには、うれしさ半分、苦勞が半分、というところです。



↑5 観光客でにぎわう清水寺の参道(京都府京都市、2023年)

3 複数の立場から持続可能な観光に向けた取り組みを考えよう

TRY3

- 1 これからも魅力ある観光地であり続けるためには、どのような取り組みが大切だろうか。観光客や住民などの立場から、あなたの考えを整理しよう。
- 2 対話 あなたの考えをグループで発表し、取り組みを進めるうえで配慮しなければならない点を話し合おう。

京都には、修学旅行や校外学習、家族旅行などで、訪問する機会があると思います。そのときに、このページで学習したことを思い出して、町並みなどを実際に見てみましょう。

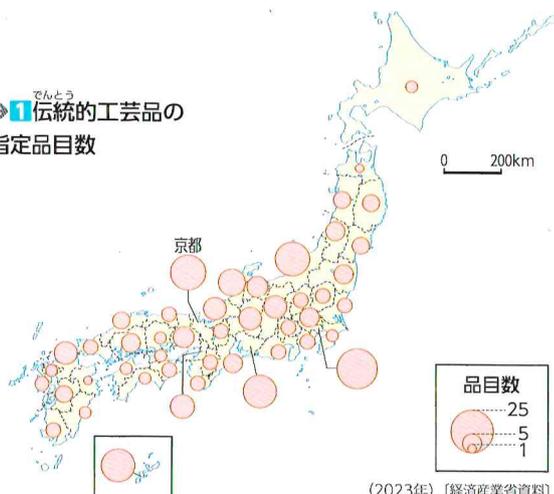


- 京都の魅力を見つけたり、京都に暮らす人々の取り組みを調べたりすることができた。
- 根拠を明らかにし、観光客と住民の両方の立場を踏まえて、自分の意見を表現できた。

日本には、伝統工芸など地域に根ざした地場産業が数多くあります。地場産業は、その土地の自然環境を背景に、入手しやすい原材料を生かして、独自の品々を生み出し

てきました。さまざまな製品を生み出してきた京都の企業は、伝統技術を生かしながら発展していくために、どのような取り組みを行ってきたのでしょうか。

→ 1 伝統的工芸品の
指定品目数



(2023年)【経済産業省資料】



← 3 店頭になら
京都の企業が
開発したゲー
ム機(中国、
テンチン(天
津)、2021年)
海外でも人
気があります。

京都には、長い歴史のなかで育まれてきた地場産業(→p.229)があります。京焼・清水焼、西陣織などは、京都を代表する伝統的工芸品として知られています。また、清酒や京漬物(写真2)、京料理は、きれいな水や京野菜など、地域で得られる原材料を生かした地場産業として発展し、現在では観光資源の一つにもなっています。

一方で京都は、先端技術産業の分野でも、国内の重要な拠点の一つでもあります。病院での診断や航空機に使われる精密機械、集積回路(IC)(→p.177)の基板から、駅の自動改札機やゲーム機(写真3)といった身近なものまで、さまざまな先端技術が京都の企業から生み出されてきました。

これらの先端技術産業のなかには、地場産業と深く関わっているものがあります。例えば、京焼など陶磁器を生産する技術から、耐熱性などに優れたファインセラミックス



↑ 2 代表的な京漬物、干枚漬の漬け込み作業(京都府京都市)
京野菜の一つである聖護院かぶらをスライスして漬物にします。



↑ 4 京都の企業の太陽光発電システムが使われているメガソーラー(滋賀県草津市、2015年)

(→p.223)を開発し、家電製品などに組み込まれる部品を製造している企業が多くあります。これらの企業のなかには、メガソーラー(写真4)や住宅用太陽光発電システムなどの環境技術においても、世界的なメーカーとなっている企業があります。このように、伝統技術を生かしながら、社会の変化に応じて新たなものづくりに挑戦することで、京都の企業は大きく発展してきました。

現在の京都の産業をリードしているのは、主に戦後から1970年代にかけて生まれた企業です。しかし、それ以降は、京都で新たに企業を立ち上げる例が少なくなっています。そのため京都市では、京都大学など新しい技術者が育つ環境を生かしながら、企業を立ち上げるための講習会を開催したり、新しい企業を支援するための施設をつくったりするなどの取り組みを進めています。